

2022 年度（第 38 回）年総会について

金沢工業大学教授・夏目賢一先生と金沢大学名誉教授・田中一郎先生のお世話で、9月3日(土)に金沢の「しいのき迎賓館」にて年総会を開催します。まことに申し訳ございませんが、現地会場にはコロナ感染症対策により定員制限があるため、希望者多数の場合には現地参加いただける方を7月31日までの抽選によって人数制限させていただきます。Zoomによるオンライン中継もおこない、こちらには皆様ご参加いただけます。いずれにせよ、参加申込は早めにお済ませください。

なお、今年度は一般講演 10 件の他に特別企画「在金沢の美術館について一国立工芸館、石川県立美術館、金沢 21 世紀美術館」を開催します。各館の工芸課長、学芸課長の方々にご登壇いただき、作品資料収集や運営の展望などについての対談をいただくことになっています。

石川県政記念しいのき迎賓館 <http://www.shiinoki-geihinkan.jp/>
(大学コンソーシアム石川 <https://www.ucon-i.jp/newsite/sisetsu/index.html>)
会場は 3 階セミナールーム B (メイン会場) A (サブ会場)

- ◇ 年総会への参加申込はウェブフォームにより受け付けます。申込方法は「さんぱく」101号をご参照ください。
- ◇ 金沢の現地会場（しいのき迎賓館）への参加希望申し込みは2022年7月末日を〆切とします。申し込み多数の場合には現地参加の可否を準備委員会による抽選によって決定し、その結果を8月上旬に個別に電子メールで連絡します。それ以降の現地参加希望は、定員に空きがある場合に限って先着順で受け付けます。定員に達している場合には新たな現地参加希望は受け付けられませんのでご理解ください。
Zoomによるオンライン参加の方には8月下旬にZoomアドレスを電子メールにてご連絡いたします。オンラインでは皆様ご参加いただけます。
- ◇ 現地会場はメイン会場とサブ（オンライン）会場の2会場に分かれています。これらの会場の定員制限のため、現地参加者をABCの3グループに分け、セッションごとに交代で1グループはサブ会場での聴講とさせていただきます。
- ◇ 抽選により現地参加が不可になった場合でも、原則として一度ご入金いただいた資料代の返金には応じられません。
- ◇ 年総会に欠席する方は、委任状の提出をお願いします。
- ◇ 委任状の提出、参加申込フォームが利用できない場合の参加申込み、その他のお問い合わせは学会事務局まで、電子メール (office@jshit.org) または郵便にてお願いします。
- ◇ 現地会場へのアクセスなどは下記を参照してください。現地会場のコロナ感染症対策などの詳細な情報は、現地参加していただける方に個別に電子メールにて案内させていただきます。
- ◇ 懇親会（情報交換会）は実施いたしません。
- ◇ 本年度の現地会場は定員制になっています。事前に準備委員会から現地参加可の連絡を受け取らないまま事前調整なしに当日突然ご来場いただいても、現地会場には入場できません。十分にご注意ください。

◇ 9月3日(土) 年総会

- 9:30 ～ 受付
10:00 ～ 10:10 開会挨拶
10:10 ～ 11:30 第1セッション 一般講演 4件
11:30 ～ 12:30 昼食
12:30 ～ 13:30 第2セッション 一般講演 3件
13:45 ～ 14:45 第3セッション 一般講演 3件
15:00 ～ 16:30 特別企画
16:30 ～ 17:30 総会

◇ 特別企画：「在金沢の美術館について—国立工芸館、石川県立美術館、金沢21世紀美術館」

岩井美恵子（国立工芸館・工芸課長）
前多武志（石川県立美術館・学芸第一課長）
中田耕市（金沢21世紀美術館・学芸課長）
コメンテーター 武藤夕佳里（京都芸術大学）
総合司会 田中一郎（金沢大学名誉教授）

◇ 9月4日(日) 見学会（事前申し込みが必要です）

- 9:30 ～ 10:30 国立工芸館
10:30 ～ 石川県立美術館（入館後に自由観覧、流れ解散）

国立工芸館 <https://www.momat.go.jp/cg/>
石川県立美術館 <https://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>
（これら2館は兼六園近くの下江エリアに隣接しています。）

※ 各館には団体割引その他の割引料金にて入館いただけます。コロナ感染症対策により現地での解説はありません。特別企画の内容を踏まえて各自で観覧いただきます。詳細は現地参加予定の方に後日ご案内いたします。

一般講演の概要

◇一般講演(発表 15分、質疑応答 5分)

第1セッション(10:10-11:30)

- 10:10-10:30 城郭石垣の隅角部における技術的変遷／濱田 晋一
城郭石垣の石積み技術については、桃山時代から江戸時代にかけて目まぐるしい発展を見せる。そこで、全国的な調査を行ったところ、具体的な変遷が明らかとなってきたことから、特に隅角部に注目して発表する。
- 10:30-10:50 アーネスト・ウォートルスの経歴について／水田 丞
明治初期のお雇い外国人トーマス・ウォートルスの弟、アーネスト・ウォートルスの鉱山技術者としての経歴について、ニュージーランドの博物館が所蔵する古文書や米国の新聞記事等を資料に解明する。
- 10:50-11:10 軍艦金剛建造期の派英技術者／宮本隆史
軍艦金剛建造期に英国に派遣された造船技術者の1人、仲野綱吉が記した手帳の内容を、他の史料と照合することにより、海軍による技術者派遣の目的、現地での業務内容、後世に与えた影響を、新たな視点から考察する。

11:10-11:30 戦時期有機合成化学協会設立にみる科学者・技術者の交流と動員／山根伸洋
合成酢酸の研究開発は大阪市立工業研究所が所属を超えた技術者・科学者の交流と動員の現場となる。上記に類する技術者・科学者の交流と動員の連続の戦時期における結節として有機合成化学協会の設立を考察する。

第2セッション(12:30-13:30)

12:30-12:50 器械製糸導入期における「イタリア式」・「フランス式」再考／鈴木淳
明治初年にヨーロッパの器械製糸技術が日本に導入された際、ミュラーとブリュナにより二つの異なる技術体系がもたらされた。従来、繰糸方法の相違が注目されていたが、加熱方法の相違に注目してその意味を再考する。

12:50-13:10 写真資料から見た製糸教婦科の学びの実際／齊藤有里加
本報告では東京農工大学所蔵の写真資料から蚕業講習所・高等蚕糸学校製糸教婦課程の学びの実際の抽出を試み、近代蚕糸学の学理の享受の実際について検討したい。

13:10-13:30 製糸技術体系における製糸女工・教婦の位置付け
—東京蚕業講習所製糸講習科卒業論文の検討から—／○差波亜紀子・土金師子
官立東京蚕業講習所は1902年新設の製糸講習科で男性製糸技術者と女性現場指導者(教婦)の育成を始めた。本報告では同科男子学生の卒論から製糸技術体系のなかで女工・教婦がいかに関与していたかを検討する。

第3セッション(13:45-14:45)

13:45-14:05 日本の電子計算機の普及における計算センターの役割／前山和喜
1960年代の日本における電子計算機の普及に関して、計算センターと称する機関が単なる計算・情報処理のサービスだけでなく、より広範なサービスを提供していたことについて分析し、その意義について考察する。

14:05-14:25 2010年代日本工作機械メーカーの製品技術と生産技術の変化／廣田義人
生産量では中国に凌駕されたものの依然としてきわめて高い技術力を有している日本の工作機械メーカーが2010年代、情報通信技術を活用しつつ、その製品技術と生産技術をどのように進化させたのかを検討する。

14:25-14:45 北海道遺産運動20年の歩みと今後の課題／山田大隆
演者は北海道庁の北海道遺産運動(2001~21年、67件選定)に遺産協議会産業遺産担当選定委員で関係してきた。北海道開拓技術史研究と利活用支援で、地域活性化経験・評価と今後の運動発展課題で提言する。

年総会会場へのアクセス

◇ JR 金沢駅から

JR 金沢駅バスターミナル 兼六園口（東口）3、6、8、9、10、11 番、金沢港口（西口）5 番乗り場よりバスにて「香林坊（アトリオ前）」下車（所要約 10 分）、徒歩約 5 分

◇ 小松空港から

小松空港リムジンバスで金沢駅まで約 40 分。金沢駅西口行きの場合には「金沢駅西口」にて下車し、上記 JR 金沢駅からのアクセスを参照。金沢駅西口経由香林坊行きの場合には「香林坊」下車、徒歩約 5 分

◇ 宿泊

香林坊から南町（武蔵ヶ辻）までの地域に多くのホテルがあります。会場は中心部にありますが JR 金沢駅からは離れているのでご注意ください。



◇ 所在地

石川県政記念 しいのき迎賓館

〒920-0962 石川県金沢市広坂 2-1-1